

利尻島にてチョウゲンボウの初記録

佐藤雅彦¹⁾・小杉和樹²⁾

〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館¹⁾

〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字富士見町 利尻島自然情報センター²⁾

The First Record of *Falco tinnunculus* from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Masahiko SATO¹⁾ and Kazuki KOSUGI²⁾

Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan¹⁾

Informative center for natural environment of Rishiri, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan²⁾

Abstract. The Eurasian Kestrel, *Falco tinnunculus*, was firstly recorded from Rishiri Island, northern Hokkaido.

利尻島ではハヤブサ属 *Falco* はこれまでにハヤブサ *F. peregrinus*, チゴハヤブサ *F. subbuteo*, コチョウゲンボウ *F. columbarius*, アカアシチョウゲンボウ *F. amurensis* の4種が確認されている(寺沢, 2000). この中で繁殖が確認されているのはハヤブサのみで, 他3種は旅鳥と考えられている.

筆者らは2001年10月に交通事故死と思われるチョウゲンボウ *F. tinnunculus* の死体を島内で拾得したので, ここに利尻島での初確認として報告する. なお, チョウゲンボウの換羽前の同定などに関しては今野伶氏(野鳥の会道北支部)に貴重な情報をご教示いただいた. ここにお礼を申し上げる.

本個体は2001年10月23日午前8時40分頃に, 筆者の一人である佐藤が利尻町仙法志政治の車道脇で発見した. 発見場所が車道のすぐ横であったため交通事故と思われたが, 目立った外傷を見つけることはできなかった. 計測値は以下のとおりで, その値はオスを示し(山階, 1985; 盛岡, 1998), また解剖結果からもオスであることが裏付けられた.

全長 316mm, 尾長 155mm, 体重 175g, 露出嘴峯長(ろう膜あり)18.8mm, ふ蹠長 39.3mm, 最大

翼長 241mm, 自然翼長 232mm, 横帯の平均値(中央の尾羽の先端の横帯を除き, 各横帯の中央付近の太さの最大値の平均を求めた)3.15mm.

山階(1985)によると, 幼鳥は8月頃から体羽や雨覆の一部を換羽し始めるが, 換羽状態は不完全であることが多いとされ, この個体も換羽が認められない幼羽の状態であった. 島内でのチョウゲンボウの繁殖は確認されておらず, 本個体は渡り途中における事故個体ではないかと考えられる.

標本は仮剥製標本(標本番号 RTMB242)として利尻町立博物館にて保管している.

参考文献

- 盛岡照明, 1998. 図鑑日本のワシタカ類(第2版). 文一総合出版. 631pp. 東京.
- 寺沢孝毅(編), 2000. 北海道島の野鳥. 163pp. 北海道新聞社. 札幌.
- 山階芳麿, 1985. 日本の鳥類と其の生態<復刻版>第2巻. 747pp. 出版科学総合研究所. 東京.